

令和 5 年 6 月 24 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K01538

研究課題名(和文) 日米統治下グアムでスペイン・カトリック司教が見た国際関係(1914～1970)

研究課題名(英文) International Relations through the eyes of a Spanish Catholic Bishop of Guam under US and Japanese Rule, 1914-1970

研究代表者

長瀬 由美 (NAGASE, Yumi)

関西外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：60563989

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、第2次大戦中のグアム・カトリック司教(1934～1945)ミゲル・アンヘル・オラノ(1891～1970)についての伝記研究の第1段階を成す。カプチン修道会ナバラ管区史料館に保存された同司教が残した一次史料を収集し、量・質の分析からこの史料の全体像と執筆目的、日本に強制隔離されていた同司教が綴った『日本の年代記』(1942～1943)の同様な分析から司教の霊性と日本像変遷等を抽出できた。これらに基づき、米海軍支配下、日本占領下から日本への追放時、政治的な会食時における同司教の宣教・司牧上の外交面を分析し、その目的・手法、専門的形が解明できた。新型コロナウイルス禍で、史料分析・統合に注力した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では、カトリック教会やその教義・歴史についての知識は、信者も少なく極少数を除いて共有されて来なかった。この文脈で、第二次世界大戦期に帝国を目指して立ち回った日本が、普遍のカトリック教会やその代表者らをどこまで理解して(おらず)、どう扱っているかを、大戦中、中立国のスペイン出身でありながら米海軍支配下、日本占領下のグアムを司牧し、日本に追放されたカトリック司教がどう見ていたか、彼の理解は正確か、それはなぜか、スペイン・カトリックと日本のファシズムやその基盤となる文化とが違ふ点は何か、その国際関係史への影響を解明でき、普遍の価値について日本人に再考させる重大な学術的・社会的意義があると言える。

研究成果の概要(英文)：This study is the first stage for the biographical study of Miguel Angel Olano (1891-1970), Bishop of Guam (1934-1945) during the IIWW. We gathered the historical documents left by him and preserved in the Provincial Historical Archive of Capuchins of Pamplona (Navarra). From its analysis in quantity and quality, the figure of the documentation as a whole and its writing-objectives were extracted. We analysed his "chronicle of Japan" (1942-1943) written during his exile in Japan in these categories and clarified his spirituality and the transformation of his Japanese image. Based on these results, we examined the diplomatic aspects of his missionary and pastoral activities under US Navy rule, during the Japanese occupation, on the way to his exile and during his political lunch. Consequently, we could elucidate his aims, method and his professional formation. Due to the new coronavirus, we had to concentrate on analysis and integration of the historical documentation, fundamentally.

研究分野：国際関係史

キーワード：カプチン修道会グアム(1911-1945) 司教オラノ(1891-1970) 日本の年代記 グアム/第二次世界大戦 カプチン修道会ナバラ管区史料館 史料研究 宣教・司牧上の外交面 日西関係

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

政治と密接な関係にある宗教を持つ国家関係の通時的な研究において、宗教側からの、特にその指導者の霊性の変遷に着目した内側からの研究は十分なされていない。カトリック教会が平和の希求に尽力しているかの検証には、高位聖職者がどのように交渉で平和を伝達し、それがその個人のどのような霊的な営みにより支えられて行くかを解明することが必要と考えられる。第二次大戦期のグアム司教オラノ(1935-1945)についての先行研究になかった、オラノの霊性から照射した伝記を検証することで、網羅的な国際関係史とカトリックの通時的な理解とに新たな知見を加えることが出来るという見通しがあった。

2. 研究の目的

本研究は、パンブローナにあるカプチン修道会ナバラ管区史料館の個人蔵セクション所蔵の、同司教の経歴を知るための史料を収集、量・質の分析、司牧・宣教上の外交面の分析を通じ、(1)米統治下のグアム島で教会解釈についてのスペインと米国の伝統がどの程度衝突し、(2)日本の占領による介入でこの関係に変化があるか、また(3)戦時下で平和がどのように模索され、(4)その中でカトリック司教オラノがどのような役割を担ったかを、国際関係史及び彼の霊性という視座から解明することを目的とする。

3. 研究の方法

所期の目的であった(1)在パンブローナ(スペイン)カプチン修道会ナバラ管区史料館の個人蔵セクション『オラノ』の部門、(2)在ローマ(イタリア)カプチン修道会文書館、(3)パチカン文書館等、(4)在グアムのミクロネシア地域研究センター、(5)在マドリッドのスペイン外務省公文書館、(6)在ワシントンDC(米国)の国立公文書記録管理局、(7)日本国内での同1次・2次史料所蔵文書館・図書館、(8)在マドリッドのスペイン国立図書館らを巡って、所蔵のオラノ司教関連史料を収集し、(9)宣教師らと面談しながら分析と統括を進めていく予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なり、2022年度後半になるまで国際間・日本国内ともに移動が不可能であったため、2年半は、それまでにかかなり収集が進んでいた(1)の史料の読み込みと分析、2次史料との統合による研究の発表および研究論文の執筆にほぼ終始した。滑り込みで(1)、(9)がわずかに可能であっただけであった。

(1)の史料を読み込んで、量と質の独自のカテゴリーを作成し、一つ一つを分類するという作業に予想以上の時間がかかった。しかし、この予備的研究は、全史料を包括した全体像と、グアム司教オラノがグアムから隔離されて日本での強制滞在中に執筆した『日本の年代記』(1942年～1943年) - オラノの伝記、中でもその霊性研究の要となる一次史料 - の全体像とについての論文に結実し、1942年のグアム島強制退去以降の司教オラノの足取りが明確になり、伝記がどのような段階・テーマに分かれるのかが明確化されるという好結果を生んだ。

これに基づき、まずはグアムにおける宣教師・司教としてのオラノの外交面についての1次史料の分析を、チャモロの島民への司牧活動も含め、米海軍総督支配下から日本軍の占領下に入り、国外に追放されるまでの時期に対して、2つの論文に分けて遂行した。この突然で、法外な扱いによる国外追放が第2次大戦期の国際関係に放ったインパクトについては、『日本の年代記』に残された記述の分析に基づき、同時期の日西関係における同司教の外交側面とその特性・影響についての解釈とともに考察して論文にまとめた。司教オラノの伝記について第一の基盤となる史料および重要文献の収集と読み込みは、一定程度行うことができた。司教オラノの言行・思想を適切に解釈するために、キリスト教の教義、キリスト教史・日本のキリスト教史全般にわたる文献収集に努めた。

4. 研究成果

この時期の(1)スペイン・米国という二国の教会解釈についての伝統の衝突は、歴史的に宗教が世俗の活動に介入するのが当たり前のスペイン的なチャモロ教会の在り方へ、敵対するのではなく、米海軍が信仰の自由への制限を強化することによって生じた、ということ的前提に解釈すべきことが検証された。例えば、1935年に新たなスペイン人宣教師二人が入国を拒否され、これに対し司教オラノは、海軍の日の祝いの席の演説を利用して宗教的自由を厳格に維持する責務について米国人聴衆に訴えた。他にも教育の問題に教会が口をはさむことがあり、教会が世俗の問題に干渉するのは、米海軍にとって迷惑なことだった。この圧力に直面したオラノは、グアム総督府を取り巻く外交網を駆使して抵抗する活動を展開した。スペイン人司教オラノと米海軍総督との関係の決裂は、史料で強調されているように、オラノが歩み寄りと協力姿勢を保つという外交姿勢を維持したため、避けられたことが解明できた。しかし、侵攻前夜には、スペイン人宣教師は、オラノと秘書のヘススを残し、皆、アメリカ人宣教師への交替が完了していた。

ここへの、(2)日本の占領による介入は、史料によると、そのいずれも、その宗派に関わらずキリスト教や信仰の何たるかを知った米海軍総督の行った「信仰の自由の制限」などの次元ではない変化を教会にもたらした。日本の占領によるグアム介入によって、キリスト教信仰も教会も貧しい生活や命さえも国家神道に沿わぬものとみなされたら殲滅される危険にさらされたことが解明できた。

(3)戦時下で平和がどのように模索されたか、(4)その中で国際関係史及び彼の霊性という視座から見てカトリック司教オラノがどのような役割を担ったかについての答えは、必然的に重なるが、史料の分析を通じて、以下が解明された。

侵攻中でも占領下でも、司教・宣教師としてのオラノ個人と宣教師らの霊的生活つまり祈りと、彼らに霊的に率いられたグアム教会の、共同体としての祈りすなわちミサが、グアム島での平和の模索の基盤になっていた。

平和を仲介するグアム教会を代表して、司教オラノは、侵攻して来た獰猛な新統治者との平和的共存を模索するためにこれへ訪問を絶やさず、細やかな配慮をした外交を続けた。このような司教の立場から、人権侵害も教会の持つ権利への侵害をも、ものともしない日本の占領下においても、自らの存在への危険を顧みず、人権擁護のための数々の申し立てを果たした。

しかし、まさにこの公正な態度に業を煮やした統治者から、突如、国外追放を執行される。これにより、グアム教会は、司教という霊的統率者が不在の状態に長く置かれた。また、これは日本とスペインとの当時の友好関係に影響を与えることとなった。

コロナ禍で移動しての調査が十分行われなかったことから、バチカンに保存されている宣教文書やスペイン外交史料、米海軍側などの史料が調べられず、米海軍側がスペイン出身の修道会の活動にどのような対応をしたのか、どのような思惑が働いていたのか、アメリカ化を巡るグアム教会の対応は日本の占領を経て、どのように変遷し、なぜなのかなどについての通時的でもっと詳細な検証が出来ずに終わったが、フォーブズらの先行研究に依拠して日本の占領までの期間については上記のように概略が解明できた。これをもとに、米国のグアム奪回後からオラノの再度のグアム追放までのアメリカ化を巡る詳細を、今後の研究で深めて行きたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yumi NAGASE	4. 巻 113
2. 論文標題 Un analisis del aspecto diplomatico de las relaciones misionales del obispo vasco de Guam durante el dominio naval americano y ocupacion japonesa hasta su destierro a Japon (1934-1942)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Inquiry and Research	6. 最初と最後の頁 189 - 211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00007966	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yumi NAGASE	4. 巻 114
2. 論文標題 Un analisis del aspecto diplomatico de las relaciones misionales del obispo vasco de Guam durante ocupacion japonesa y evacuacion de Guam (1941-1942)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Inquiry and Research	6. 最初と最後の頁 245 - 265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00007997	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yumi NAGASE	4. 巻 470
2. 論文標題 Estudio preliminar acerca de la vision de un misionero vasco de Guam (1942-1943) : descripcion de la fuente archivistica "Cronica de Japon"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Estudios franciscanos	6. 最初と最後の頁 167-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yumi NAGASE	4. 巻 28
2. 論文標題 La vision de Guam del Obispo vasco Miguel Angel Olano : descripcion de las fuentes archivisticas (1918-1970)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Naveg@merica. Revista electronica editada por la Asociacion Espanola de Americanistas	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6018/nav.505871	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yumi NAGASE	4. 巻 47
2. 論文標題 An Exiled Basque Bishop of Guam Miguel Angel Olano 's Insight in His Chronicle of Japan (1942-1943): Educative Episcopal Diplomacy vs. Japanese Fascism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Studies Review	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Yumi NAGASE
2. 発表標題 バスク人グアム司教の日本隔離中の宣教・司牧活動における外交面の分析 (1942年-1943年)
3. 学会等名 スペイン史学会第185回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yumi NAGASE
2. 発表標題 An analysis of the diplomatic aspect of the missionary and pastoral activities of the Basque Bishop of Guam during his forced stay in Japan (1942-1943) (2)
3. 学会等名 The 31st EAJRS Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yumi NAGASE
2. 発表標題 Un analisis del aspecto diplomatico de las relaciones misionales del Obispo vasco de Guam durante su exilio en India (1943-1944)
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会第67回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yumi NAGASE
2. 発表標題 Un analisis del aspecto diplomatico de las relaciones misionales del obispo vasco de Guam durante el dominio naval americano y ocupacion japonesa hasta su destierro a Japon (1934-1942)
3. 学会等名 日本イスパニア学会第66回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yumi NAGASE
2. 発表標題 From Tokyo to Guam: the Evacuation of the Bishop of Guam, Miguel Angel Olano Urteaga, through his Chronicle of Japan (1942-1943) and the Spanish Diplomatic Documentation (1942-1944)
3. 学会等名 The 33 EAJRS Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関